

ユニセフ兵庫ニュース
Wish

世界の子どもたちのために

vol. **53**
2017年9月号



©日本ユニセフ協会

粉ミルクの缶で遊ぶ子どもたち。

CONTENTS

EVENT FOCUS

2-5

子どもへ寄せる大人の^{おも}想い

ユニセフ写真展／ユニセフ国際セミナー

6-7

活動ファイル
2017年5月～8月

8

お知らせ



子どもへ寄せる大人の想い

子どもの幸せを願う大人の想いは、成長した子どもたちの心の中に大切な思い出として残り、世代を超えて引き継がれていきます。この夏、兵庫県ユニセフ協会では、第二次世界大戦後の日本でのユニセフの活動を記録した写真展と、現在の日本で子どもの問題に取り組んでいるお二人を招いた国際セミナーを開催しました。



©日本ユニセフ協会

ユニセフ写真展

ユニセフによる 戦後日本の 子どもたちへの支援



1949年から15年間にわたり
ユニセフは日本の子どもたちを支援しました。
当時の写真からは、戦後の子どもたちと
今につながるユニセフの支援の様子が伝わってきます。

Event Data イベントデータ

日時 7月3日(月)～9日(日)
会場 市役所市民ギャラリー(神戸市役所1号館2階)
共催 (公財)日本ユニセフ協会、兵庫県ユニセフ協会



4

©日本ユニセフ協会



5

©日本ユニセフ協会

▼ 歌を聞きながら午前のおやつミルクを飲む子どもたち。(東京清瀬小児結核療養所)



© 日本ユニセフ協会



© 日本ユニセフ協会

▲届いた支援物資に興味津々の人たち。
(兵庫県神戸市長田区 池田小学校)
▶宮崎市 国富小学校



給食の歌

あまい おいしい ミルクさん
わたしは あなたが 大すきよ
まいにちまいにち いただいて
つよく大きくなりますよ
ユニセフきゅうしょく ありがとう

- 1 黒板には子どもたちが歌った「給食の歌」の歌詞。(山梨県 豊小学校)
- 2 岩手県盛岡市 大慈寺小学校
- 3 全粉乳を受給した児童の健康診断。(盛岡保健所)
- 4 子どもたちによる楽器の演奏。
粉ミルクの支援を受けた多くの学校では「ユニセフに感謝する会」が開かれました。
- 5 原綿から加工された肌着を手にする子どもたち。

第二次世界大戦後、食糧や衣類・生活物資の不足のため、厳しい生活を強いられていた多くの子どもたちの様子を見たGHQ(連合国軍総司令部)福祉部の高官の働きかけにより、ユニセフの支援は決まりました。

そして1949年9月、支援物資第1号の原綿(児童約30万人分)が神戸港に、10月には粉ミルク(児童6万人分)が横浜港に到着しました。原綿は子どもの衣類に加工され、貧しい家庭に配られました。粉ミルクは、全国12都市38ヶ所の保育所と45都道府県下の54のモデル校に配給されることになりました。この支援開始にあたり、ユ

ニセフは日本政府に対し、子どもの数と成長状態のデータの提出と、荷揚げから配布までの段取りをきちんとつけることを強く要請し、さらに定期的な成長観察によるデータ収集も課しました。粉ミルクを飲んだ子どもたちとそうでない子どもたちを比較し、成果が上がったことが確認された上で、粉ミルク支援は全国に広がっていきましました。支援総額は当時の金額で65億円にもなりました。

現在も、このように自立を目指す子どもたちのために続いています。



1



2



3

© 日本ユニセフ協会

© 日本ユニセフ協会

© 日本ユニセフ協会

ユニセフ国際セミナー

子どもにやさしい街

～上映会&トークセッション～



子どもが SOS を出せる場所がありますか。
 困ったことを抱えている親と子が、
 適度な距離感を保ちながら地域の中で暮らしていく。
 「こどもの里」は、そんな親子が
 安心して過ごせる居場所です。
 庄保共子さん、浜田進士さんをお招きし、
 「さとにきたらええやん」の映画を通して見えてくる、
 子どもにやさしい街について考えました。



Event Data イベントデータ

日時 7月15日(土)
 会場 コープこうべ住吉事務所(神戸市東灘区)
 講師 庄保共子さん、浜田進士さん
 参加者 111人
 主催 ユニセフ七タネットワーク(大阪・奈良・岡山・
 広島・香川・愛媛・兵庫の各ユニセフ協会)
 共催 コープこうべ

Profile 講師プロフィール

しょうほ ともこ
 庄保 共子さん



NPO 法人こどもの里理事長。
 1977年西成消防署の横に学童保育「こどもの広場」を開設、1980年西成警察署南横に「こどもの里」として移設、現在に至る。労働者の街、釜ヶ崎で約40年にわたり子どもの暮らしを支えている。

はまだ しんじ
 浜田 進士さん



自立援助ホーム「あらんの家」ホーム長。
 子どもの権利条約総合研究所関西事務所長。宝塚市子どもの権利サポート委員会委員。子どもの人権ファシリテーター。元関西学院大学教育学部准教授。

トークセッションは、浜田さんが庄保さんに質問を投げかける形で進められました。

こどもの里

浜田 どうして「こどもの里」を始めたのですか。

庄保 大学を卒業したばかりの22歳の時、私が通っているカトリック教会の青年会に、大阪市

西成区釜ヶ崎の子どもたちに勉強を教えるボランティアをしないかという提案があったのです。

員がやってきて、あつという間に50人60人になりました。

浜田 遊び場をつくろうと思ったから、兄弟を連れてきて、泊まらしてとせがまれたんですね。

庄保 日雇いのことも何も知らなくて、かわいそうな子どもたちを何とかしてあげようという、今思うと非常に傲慢な動機で始め、それからの1年間でぎゅ

んと言われました。
 浜田 「こどもの里」は、1階が地域の児童館としての子どもの

活動のスペース、2階が食堂、

スを抱える中学生のジウウ君は、いらだから兄弟に暴力をふるうため、職員が家族をまるごとサポートしています。そんなジウ君ですが小さい子にはよく遊んでくれるお兄ちゃんとして慕われています。そんな時には暴力は出ません。こういうチャンス地域でたくさん作ればと考えています。

お母さんと離れて「こどもの里」で暮らす高校生のマユミちゃんは人との交わりが苦手ですが、就職も決まり「里」を出ることに。



浜田 子どもたちの言葉は、オツチャンからどんな力を引き出しているかなあと思うんです。子どもには力があるんですね。夜回





1970年初めて地下鉄の大国町駅を降りたとき目にした光景は、たくさんの日雇い労働者が円陣を組んで酒盛りをし、その周りで遊んでいる子どもたち。言葉は粗いしがさつだけど、すごくきれいな目をしている。全然目の輝きが違って、それがカルチャーショックで、私はこの時から生き方が変わりました。

「こどもの里」の前身である「こどもの広場」ができました。

浜田 始められたのは、イメージ的には遊び場とか学童保育みたいなものですか。

庄保 インベンダーゲームのはやった頃でした。三角公園で遊ぶ子どもにも声を掛けたら兄弟全

図書室、誰でも泊まれる緊急一時保護・宿泊スペース、3階は庄保さんが里親になっている子どもたちの居室になっていますね。

地域・親・子

浜田 庄保さんは地域の中で親と子を離さずに、おかあちゃんも子どもも育てるという事ですが、映画に出てくる3人の子どものその後の様子を話してくれますか。

庄保 5歳の男の子マサキ君は、虐待を経験したお母さんから虐待を受けていました。お母さんにしんどいことがあればつい手が出てしまう。そうなる前に一時的に子どもを預かります。そうすると、親と子に適度な距離感が生まれ、虐待には至らない。子どもにとつて親が一番、親と子が離れ離れにならずに、地域での生活を続けられます。

軽度の知的障害があることにコンプレック

「困ったらいつでも来て！分らないことがあったらいつでも相談して！」と声をかけます。自立と云うのは何でも一人でできるようになる事と思いがちですが、依存先を多く持つことです。

浜田 あらんの家では15歳〜20歳の男の子をあずかっています。最近来た子どもは、自分の要求が通らないと刃物を振り回していましたが、お母さんとの関わり方が変わることで落ち着きました。子どもにとつてどんな親でも親だなあという気がします。

夜回りから学ぶこと

庄保 35年くらい前に子どもたちがホームレスを襲撃するという事件が続きました。それを受け、「こどもの里」は子どもたちにおおきくお世話になって野宿をしなくてはいけなさを知らせたいと、地域の夜回りを始めた。ホームレスとの出会いの中で子どもたちは「オッチャンたちはお母さんのお腹の中から生まれたのに、何で外で寝なあかんの」などの感想を書いたんです。子どもの力はすごいですよ、子どもたちの優しい言葉掛けはオッチャンたちに元気を、生きる力を与えています。そしてオッチャンから「ありがとう」「これであと一

日生かれるわ」の言葉を受ける。お互いを力づける関係が生まれています。

りを通して学ぶのは、命をつなぐ、暴力の連鎖を止めるという事だと思えます。

子どもにやさしい街 (Child Friendly Cities)

庄保 「こどもの里」はそれぞれの家庭の事情に寄り添いながら、障がいのある、国籍に関係なく受け入れ、「誰でもいつでも来ていいよ」と、子どもも大人も集える場として門戸をあけています。地域の中に、いつでもSOSを出せる場所があれば、親と子が引き離されることなく、子どもを地域で守ることができ

ます。子どもにとつて親が一番の子どもは継続して学校へ通うこともできます。また、子ども自身が「私は親に見捨てられた」と思わずにすむということです。「私はあんたの味方やで！」と子どもも大人も安心できる居場所があつてこそ子どもにやさしい街だと思っています。

浜田 「子どもにやさしい街」は、ユニセフも提唱しているもので、Child Friendly Citiesといえます。ヨーロッパでは、ユニセフがこの自治体は子どもにやさしい街ですよ、と認定する制度があります。日本ユニセフ協会もそれを目指してしています。子どもの思いをちゃんと聞き、子どもの権利を大切にする街をつくっていくことなんです。



映画「さとにきたらええやん」

「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも力強く成長していく子どもたちと、彼らを支える職員たちに密着。子どもたちの心の揺れ動きを見つめながら、子どもも大人も抱えている「しんどさ」と格闘する人々の切実な姿を描き出しています。





Activities File

活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2017年5月～8月

Activities List

学習会訪問一覧

月日	訪問先	対象	人数
5月22日	篠山コープ委員会	大人	23
6月12日	有瀬児童館	小学生	58
6月29日	神陵台愛徳幼稚園	幼稚園児	172
7月11日	宝塚市わくわく人権学習	小学生・大人	22
7月21日	コープこうべ第6地区活動本部	大人	23
7月30日	西神戸教会	小学生・大人	37
8月29日	あさひ児童館	小学生	70

地域活動一覧

*ユニセフ紹介と支援物資の展示

月日	イベント名	
5月24日～31日	菅野千代子写真展	
5月27日	第2回 国際理解講座	
6月24日	第3回 国際理解講座	
7月 3日～ 9日	ユニセフ写真展	
7月15日	ユニセフ国際セミナー	
7月22日	メダカの学校	*
7月29日	コープこうべ第3地区平和を願うつどい	*
8月 2日	コープこうべ三木緑が丘平和のひろば	*

※8月5日、8日、10日 兵庫県立伊丹北高等学校自主体験学習生受入

募金していただいた学校・団体（3月～6月）

兵庫県ユニセフ協会を通して募金していただいた学校・団体のお名前を記載しています。（敬称略、順不同）

伊藤ハム(株)、渦森台編物・福祉サークル、神戸ワイズメンズクラブ、コープこうべ協同学苑、コープこうべユニオン、(株)産業経済新聞社、日本キリスト教団西神戸教会、日本ハム(株)CC推進室、(一社)兵庫県子ども会連合会、ボーイスカウト姫路第16団、(私)神戸国際中・高等学校生徒会、神戸市立葺合高等学校

ご協力ありがとうございました。



ユニセフ出前学習会で
エプロンを使って
活動紹介▶

1 福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ

日時 7月29日(土)～8月2日(水)

場所 神戸YMCA余島野外活動センター(香川県小豆島)



2012年から始まったキャンプに、今年は兵庫県ユニセフ協会の学生ボランティアの迫さんがリーダーとして参加しました。

見渡す限りの海と木々。今回僕が足を踏み入れた‘よしま’は、そんな絵に描いたような自然の島でした。寝床から聴こえるのはただ、蝉の鳴く声・波の打ち寄せる音・風で揺らぐ葉音。目でも、耳でも、鼻でも、すべての感覚で自然を感じられる、そんな島でした。初め上陸した子どもたちは、どこか緊張したような不安そうな面持ちでした。しかし、キャンプ中の様々なプログラムを通じて急速に変化していく子どもたちの様子には、驚かされてばかりでした。そして最終日の夜のカウンセファイヤーでは、キャンプ集大成として子どもたちにバトンが渡されました。大人も子どもも含むキャンプに参加している全員の前で、自分の気持ちを発表しても良いよ、という場面。長い沈黙を破るようになって「はい!」と手を挙げた子の表情と発言には、もう初日の不安は見えませんでした。キャンプとは、そして子どもとは、なんて素晴らしいんだ、と胸が熱くなりました。キャンプには、教室では教えられない大切なことがあると思います。自然には、教科書に書ききれない大事なことがあると思います。僕は現在、不登校児の学習支援や生きづらさを抱える学生の居場所づくりを行なっていますが、いつかキャンプも活動に取り入れたいと思っての今回の参加でした。島を出て数日経った今でも、目を閉じて聞こえてくるのは、自然の音と子どもたちの歌う声です。この笑顔を、この自由を守るために、これからも活動していきたいと噛み締めた6日間でした。

(迫 裕太)

2

国際理解講座

会場 コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)

第2回

福島から考える
日本社会と多様性講師 前川直哉さん(ふくしま学びのネットワーク事務局長、
ダイバーシティふくしま共同代表)

日時 5月27日(土)

参加者 70人

前川さんは、日本社会を中央/周縁という側面から解説し、多様性(ダイバーシティ)を認め合うだけでなく、「違いを歓迎する」こと、多様性を歓迎することの大切さを話しました。



前川さんは、高校3年の時に阪神・淡路大震災で被災。恩師の「物は壊れ、街も壊れたが、人が人に教えたことはどんな災害があっても残る」という言葉が支えとなり、教育を一生の仕事と決めました。灘中学校・高等学校で教鞭をとっていましたが、東日本大震災後には福島を何度も訪れ、困難に立ち向かう「カッコいい大人」たちに会い、福島への移住を決意しました。

前川さんが事務局長を務める「ふくしま学びのネットワーク」では、だれかの力になりたいのならそのために力をつけなければならないという考えを基本に、福島の子どものための主体的な学びを伸ばすための活動を行っています。

また、福島の人たちは、居住制限、風評被害、住民同士の分断など心が痛むさまざまな経験をしていました。そこで、辛い経験をした福島を多様性を尊重する日本一優しい県にしたいという思いから、「ダイバーシティふくしま」を仲間とともに設立。互いの違いを尊重し、あらゆる場所ですべての人の違いが歓迎されるように幅広く活動しています。

第3回

アフリカで23年
子どもたちとともに

講師 松下照美さん(モヨ・チルドレン・センター主宰)

日時 6月24日(土)

参加者 67人

松下さんの活動の原点は、ウガンダ。最愛の人を失い心にぽっかりと穴の開いた松下さんと、愛されたいアフリカの子どもたちとの出会いでした。

今は、ケニアのティカで、路上生活をする子どもたちにとっての家となる国際NGOモヨ・チルドレン・センター(MCC)の代表として活動しています。モヨ(MOYO)とはスワヒリ語で心、魂、精神を意味します。ストリートの子どものリハビリや給食支援、学資支援など活動は多岐にわたります。6歳から16歳まで男の子ばかり19人が暮らす孤児院兼ストリートチルドレンの保護施設の運営



もしています。

貧困などの理由から路上で生活する子どもたち(チョコラ)は、空腹を紛らすためにシンナーに手を出します。MCCに来る子どもたちの約98%が薬物中毒です。現在71歳の松下さんは、日本の外務省の援助を受けて「有機農園を通じてのリハビリプロジェクト」を始めようとしています。自然の中で、農業をし、小動物を育て、自給自足の暮らしを送りながら薬物を抜きリハビリ施設の完成を目指しています。

質疑応答では、中学生、高校生を始め、参加者からたくさんの質問が出ました。

3

管野千代子写真展
「仮設住宅の暮らし」

期間 5月24日(水)～31日(水)

会場 コープこうべ生活文化センター1階展示室



管野さんは福島県浪江町に住み、看護師として働きながら飯舘村に通い、山里の暮らしを撮り続けていました。原発事故後は自らも被災者となりながら、避難所や仮設住宅などを訪れ、様変わりした町の風景や人々の営みを撮影しています。

今も復興途中の仮設住宅の暮らしの中で、住民の笑顔の裏側にある悔しさや悲しみ、将来に夢や希望を見出せない不安を伝えたいという管野さんの思いが感じられる写真展でした。

管野千代子さん

宮城県出身。ニッコールクラブ会員。全日本写真連盟福島支部所属。各種フォトコンテスト等で入賞多数。

ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ネパール大地震	ネパール K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ干ばつ	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道支援 K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会

*手数料免除

Volunteer

あなたもボランティア!

ボランティア募集中

「できる人が できる時に できることを」をモットーに子どもたちのための活動をしています。一緒にボランティアしませんか。お気軽にご連絡ください。

Wish ユニセフ兵庫ニュース vol.53

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2017年(平成29年)9月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日10:00～16:00)

FAX：078-451-9830

●最新の情報はホームページで

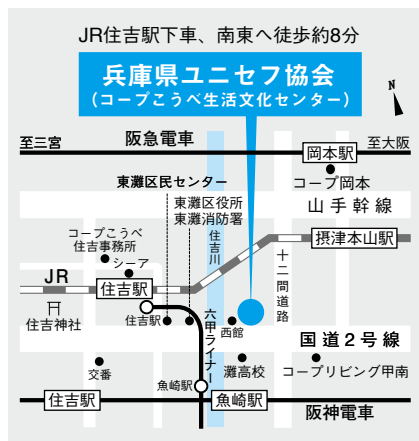
<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

講師の都合により予定を変更する場合があります。詳細はHPをご覧ください。

第4回 国際理解講座 映像で見る「イスラム国」と周辺地域 に暮らす女性や子どもたちは今

日時 9月16日(土) 13:30～15:30
会場 とよなか国際交流センター
講師 アジアプレス記者 玉本英子さん



イラク、シリア、トルコなど中東地域を中心に取材し、テレビ、新聞やネットニュースなどを通じて伝えている。長年のイラク・シリア取材が評価され、2017年ギャラクシー賞報道活動部門の優秀賞を受賞。

第5回 国際理解講座 「世界を変える」という仕事 カンボジアで国際協力師になる道を選んで

日時 12月16日(土) 13:30～15:30
会場 コープこうべ生活文化センター
講師 認定NPO法人テラ・ルネッサンス



延岡由規さん
神戸市外国語大学卒。在学中より認定NPO法人テラ・ルネッサンスでインターン/フェローとして活動。ウガンダ、カンボジア事務所にて海外事業を担当。同団体職員として現在は海外事業部アジア担当としてカンボジアに滞在。

第39回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

毎年11月～12月はハンド・イン・ハンド募金月間です。1979年の国際児童年から行われているハンド・イン・ハンド募金は、誰もがどこでもできる募金活動です。

兵庫県ユニセフ協会では、下記の日程で街頭募金活動を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。お問い合わせは事務局まで。



日程 12月16日(土) 16:00～17:00
12月23日(土・祝) 11:00～13:00
その他、垂水を予定(日時は未定)

住吉
姫路、元町、三宮、住吉、西宮北口、伊丹

お申込み、お問い合わせ先

事務局 **078-435-1605**

News お知らせ

兵庫県ユニセフ協会設立15周年記念事業 ユニセフひろば

日時 11月11日(土)、12日(日)
会場 コープこうべ協同学苑(三木市青山)

第16回ユニセフのつどい

日時 2018年3月17日(土)
会場 コープこうべ生活文化センター

Booth 出展参加

10月28日(土)	姫路市医師会看護専門学校文化祭
10月28日(土)・29日(日)	兵庫県ふれあいの祭典(播磨科学公園都市芝生広場周辺)
11月5日(日)	2017ユニセフカップにのみや甲子園ハーフマラソン
11月18日(土)	にのみやふるさとウォーク2017

出展ブースでは、支援物資の展示、クイズ、ゲーム、資料の紹介などを予定しています。

ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。お気軽にお問い合わせください。

ユニセフ ひょうご サポーター



賛助会員募集中

賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動を支えてください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。